



電車どおり

令和元年9月25日発行 第169号

函館中央病院

発行責任者 本橋 雅壽



総合周産期母子医療センター、北海道がん診療連携指定病院、北海道小児地域医療センター、日本医療機能評価機構認定施設

基本方針

- 道南の基幹病院として急性期医療に取り組みます。
- 断らない救急医療を実践し、住民の信頼と期待に応えます。
- 総合周産期母子医療センター及び北海道がん診療連携指定病院として高度で専門的な医療を提供します。
- 「患者さまの権利」を尊重し、安心して安全なチーム医療を実践します。
- 医療環境の発展と充実のため、地域の行政・医療機関との連携を強化します。
- ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりと人材育成に力を入れます。

認定看護師にインタビュー

患者さまの自己決定を尊重し 一緒に看護を創造します

認定看護師とは日本看護協会が定める研修を修了し認定審査に合格した看護師のことを言い、特定の分野において、熟練した看護技術及び知識を用いて、水準の高い看護を実践する看護師を指します。わかりやすく言うと、その道のスペシャリストです。認定看護師の分野は21分野に分かれており（2019年8月時点）、今年当院では2名の看護師がそれぞれ「手術看護」と「救急看護」の認定審査に合格しました。先月号に続き、今回は救急看護認定看護師となった秋田康志看護師にインタビューで話を聞きました。



救急看護認定看護師
秋田 康志
(ICUセンター勤務)

◇ 救急看護で大切なことは？

救急の患者さまは、急な発症や災害時など突発的に発生します。その為、救急外来やICUなどで救急看護に携わる看護師は、患者さまの身体にどんなことが起きているか、或いはどんな変化があるのかを五感をつかい、観たり触れたりしながら把握するフィジカルアセスメントを行い、患者さまの状態をいち早く把握し、適切な処置を行なう必要があります。また、救急の患者さまは小児から高齢者、そして妊産婦と対象となる範囲が広く、さらに、患者さま自らが苦痛を訴えられないというケースが多くあります。ですから、救急看護においてフィジカルアセスメントをする能力と知識が非常に求められるのです。

◇ 救急看護認定看護師を目指したきっかけは？

私は、当院のICUセンターに勤務し、多くの救急患者さまのケアを行なってきました。また、ドクターヘリのフライトナースとしても様々な救急現場を経験しています。このような救急医療に携わるなかで、刻々と変化する患者さまの病態に対応し、効果的かつ安全な全身管理をするためには自分が行なう看護に「根拠」が必要であると考えるようになりました。また、認定看護師に限らず看護師の仕事として大切なことは、身体のケアだけではなく心のケアを行な

中央・病・院・前

先日受けた健康診断の結果が手元に届きました。むむっ、結石！？「あらら…」私の知ら



ない間に私の身体は私の意思とは関係なく石をつくっていたようです。一体、何年もの？自覚症状が出るととても痛いとお聞きしました。痛みの症状が出る前に、運動などで、出来るだけ改善に努めたいと思います。最近空を見あげると、青空が綺麗に澄んで見えます。「もう少しで秋かぁ」と、空の色は次の季節の到来を予感させてくれますね。芽吹き、実り、葉が枯れ、また芽吹くための力を蓄える。季節の移り変わり人生が何となく似ている感じがするのは気のせいでしょうか。

うことです。自分自身の看護レベルを向上させることで、患者さまやご家族への総合的なケア能力の向上に繋がると考えたからです。

◇ 心理面におけるケアで必要なことは？

患者さまを少しでも早く元の生活に近づけるように前向きな方向へと導くことです。救急では患者さま自身にとっても受傷や発症が突然の出来事です。その為、患者さまの多くは日常生活のなかで突然起きてしまったその出来事をすぐに受け入れられない方がほとんどです。そのような患者さまやご家族と向き合い、将来に向けて目標や意欲をもって頂けるように看護を創造していきます。もちろん看護師だけではなく、リハビリや栄養面などでは多職種との協力が不可欠となります。重要なことは、患者さまが自ら決定したことを尊重し、患者さま個々に合わせたケアを行い、看護をデザインしていくことです。



◇ これから認定看護師として取り組みたいことは？

院内に限らず、道南地域における救急看護の力になればと考えております。認定看護師の資格を取得したことで、「根拠」に基づいた看護を実践出来るようになりました。具体的な活動計画はこれからですが、道南地域における救急医療の質向上の為に尽力し、少しでも力となれるように取り組んでいきたいと考えております。

高校生の進路のミカタ

「はこだて仕事フェスタ」に参加

9月10日(火)に函館アリーナで開催された仕事フェスタ(主催:函館市・マイナビ)に出展しました。このイベントは高校生が進学や将来の就職に向けて自身で考えるために、様々な業界の企業や会社が必要な情報を提供するイベントです。当院は市内の医療機関で唯一の出展となり、約150名の高校生が当院ブースを訪れ、大盛況となりました。当院からは医師・薬剤師・看護師・診療放射線技師など9職種スタッフが参加し、高校生たちに多くの職種を知ってもらおうとブースを開設しました。高校生からは看護師の人気の非常に高く大混雑でした。また、最近のテレビドラマの影響もあってか、診療放射線技師に興味をもつ高校生も多かったように思います。

若者離れが進む函館市において、このようなイベントはとても意義のあるものです。このイベントをきっかけに医療職を志した高校生が、数年先に私たちの仲間となり地元で活躍してくれることを心より願っております。



真紅の大優勝旗

市内病院対抗野球大会 優勝

	1	2	3	4	5	6	7	計
中央病院	3	0	0	0	7	-	-	10
港町にある病院	1	0	8	0	0	-	-	9

函館市内の病院対抗野球大会が9月8日(日)15(日)の2日間で開催されました。この大会は今年で第87回大会となり、とても歴史のある大会です。今年は9病院の野球チームが参加し熱戦を繰り広げました。

中病チームは初戦・2回戦(準決勝)と勝利し、いよいよ迎えた決勝の舞台。決勝戦は最後まで手に汗握るドラマチックな試合展開となったのです。初回に幸先良く3点を先取しそのまま波に乗って難なく優勝か?と思いきや、勝負の世界は甘くはありません。前の試合好投のエース小平(事務員)が2連投の疲れから突如乱れ、3回に満塁ホームランを含む8失点。中病ナインに「もうダメか…」そんなムードが立ち込めました。1時間20分という決められた試合時間のなかで、中病チームの攻撃は5回の1イニングを残すのみ。しかし、ここから脅威の集中力と粘りを見せたのです。2塁走者で出塁していた中病野球部監督の田島(42歳レントゲン技師)が3塁へのヘッドスライディングで盗塁に成功。これで一気にナインの士気が高まりました。2アウトとなり「万事休す」という場面が数回あったものの、相手のミスにも助けられ一気に7得点の大逆転劇。そして、最終回の守備では、頼れるキャプテンサード村井(理学療法士)のダイビングキャッチが飛び出し、歓喜の瞬間を迎えたのです。チーム全員野球で勝ち取った嬉しい勝利となりました。

優勝祝ビールかけいつやろうかな(笑)



日曜日にがん検診を実施

10月20日(日)実施

「乳がん検診と子宮がん検診」を行います

事前の申し込みが必要です。(10月9日(水)締切ります。)
(申し込み先着順・ただし、定員になり次第締め切らせて頂きます)



実施日時	令和元年10月20日(日) 9:00 ~ 11:30 (完全予約制)
実施人数	23名 (申し込み先着順・ただし、定員になり次第締め切らせて頂きます)
検査内容・費用	【乳がん検診】 視触診+マンモグラフィー(2方向) 6,600円(税込) ※必要に応じエコー検査実施(健康保険診療) ※市町村発行の無料クーポン券・検診受診券がご利用いただけます 【子宮がん検診】 子宮頸がん検診 + エコー検査 6,050円(税込) ※市町村発行の無料クーポン券がご利用いただけます ※エコー検査(オプション) (無料クーポン利用時の希望者のみ) 2,200円(税込) ※HPV検査(オプション) 4,950円(税込)
結果連絡	後日、郵送にて報告いたします
その他	乳がん検診のマンモグラフィー撮影は、女性技師が対応いたします

ご予約・お問い合わせ 電話 0138-52-1231

函館中央病院 健康管理センター

【患者さまの権利】

- ・安全で良質の医療を平等に受ける権利
- ・自らが受けている医療について、十分な説明を受け、知る権利
- ・セカンドオピニオンを求める権利
- ・自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
- ・個人のプライバシーが守られる権利
- ・個人として常にその人格、価値観が尊重される権利

【患者さまの義務】

- ・自らの健康状態を医療者にできるだけ正確に知らせる義務
- ・医療者の説明や自らの疾病状態の理解に務める義務
- ・病院の規則や医療者の指示に従い、医療に参加・協力する義務
- ・他の患者さまの治療や医療者の業務に支障をきたさない義務
- ・受けた診療に対し、医療費を支払う義務



『電車どおり』では、皆さまのお役に立ちそうな情報をどんどん掲載していく予定です。記事に対するご要望などがございましたら、広報誌担当事務局までお問い合わせ下さい。連絡先: TEL 0138-52-1231 (内線 2263)

次号発行予定は10月25日です。お楽しみに!!